第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

ヤマトサンショウウオ

Hynobius vandenburghi Dunn, 1923

田辺真吾（日本爬虫両棲類学会）・松井正文（京都大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　爬虫類・両生類分科会

環境省 編

令和８（２０２６）年３月

特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：田辺真吾・松井正文，2026．ヤマトサンショウウオ．環境省（編）第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 572-576.

Citation: Tanabe, S. and M. Matsui, 2026. *Hynobius vandenburghi* Dunn, 1923. *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 572-576.

有尾目 Caudata　サンショウウオ科 Hynobiidae　　日本固有

ヤマトサンショウウオ

***Hynobius vandenburghi* Dunn, 1923**

カテゴリー判定結果　絶滅危惧Ⅱ類（VU）　B1ab				
基準 A:　－	基準 B:　VU	基準 C:　－	基準 D:　－	基準 E:　－

B1．出現範囲が 20000 km²未満であると推定されるほか、次の兆候が見られる。
a) 生息地が過度に分断されているか、10 以下の地点に限定されている。
【過度に分断】
生息地の多くが開発等により寸断され、残された小集団では絶滅リスクが高い状態にある。
b) 出現範囲、生息地面積、生息地の質、生息地点数、成熟個体数のいずれかに継続的な減少が推定・予測される。
【判断理由】
生息地の多くが様々な人為的な環境改変や乾燥化、捕食性外来種の侵入などにさらされている。滋賀県大津市や彦根市、栗東市、京都府木津川市などが生息地のいくつかが開発によって消失した。減少要因は取り除かれておらず、改善の対策が取られなければ、生息状況は今後も継続的に悪化していくものと推察される。

評価分科会：　爬虫類・両生類分科会

概要

本種は東海から近畿地方固有の止水産卵型の小型サンショウウオである。2019 年にカスミサンショウウオから分けられた。各地で生息地の開発が進んで激減しており、地域個体群が絶滅した例もある。

基礎情報

【形態】

体は小型（オス全長 73～126 mm、平均 95 mm）。四肢は比較的短く、尾の上下縁には通常、黄色の条線がある。トウキョウサンショウウオと姉妹群をなし、この群はセトウチサンショウウオと姉妹群をなす。セトウチサンショウウオに比べ鋤骨歯列が短く、サンインサンショウウオに比べ尾と前後肢間が長く、肋皺の数が多く、頭が小さく、眼窩間と尾幅が狭く、後肢が短く、前後肢の重なりが少ない。

【生活史】

本州（岐阜県、愛知県、三重県、滋賀県、奈良県、京都府、大阪府）に分布し、丘陵地から低山地で生活する。ヒダサンショウウオやマホロバサンショウウオと垂直的にすみ分けている。

【生息環境】

一般には低地から丘陵地の湧水や、水田（イネやセリ）と隣接した二次林、竹林、草地に生息する。産卵や幼生の成長に必要な比較的浅い止水環境と変態後の個体が生息する林が連続して存在する必要がある。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】森林，田地・畑地，耕作放棄地，農業用水路，湿地・湿原・細流，ため池・池沼 【陸域_平地部】森林，田地・畑地，耕作放棄地，湿地・湿原，ため池・池沼
国土地域区分：	（2）里地里山・田園地域，（3）都市地域，（5）沿岸域

【分布域】

近畿地方の中東部と中部地方南部地域（岐阜県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、奈良県、大阪府）から知られる。

現在の生息状況

【分布域の現況】

多くの産地は市街地や山地によって著しく分断され、すでに絶滅した地点が多い。現在の生息状況はほとんどの地点で不明である。

【生息地の現況】

生息に必要な水の枯れない止水環境と、それに隣接した森林、草地などの陸上環境という条件は、都市近郊では丘陵地に集中しているが、その様な場所は近年もっとも開発が進む環境となっている。滋賀県大津市や京都府木津川市の生息地の何箇所かは近年のニュータウン開発によって消失した。

【個体数の現況】

種全体の個体数は不明だが、絶滅地点が多いことから近年急速に個体数も減少していることは間違いない。かつて奈良県や京都府で個体群絶滅の例があり、現在も各種開発によ

る生息地の消滅および圃場整備に伴う水路の改変、早春繁殖期の乾田化、アライグマやアメリカザリガニによる捕食などにより各地で減少している。岐阜市の保全活動が行われている地域では、個体数が増加傾向にあり、80 対以上の卵嚢が確認されているが、そのような地点は稀である。生息密度は季節的、年次的ともに不明であるが、ある環境条件の良好な個体群では 0.36 成体/m^2 という値が得られている。

存続を脅かす要因

大規模な土地開発による生息地の消失と、それにともなう汚水の流入などの水質悪化、減反による水田の乾燥化が最大の脅威となってきた。愛好者等による採集も頻繁に行われている。アライグマやアメリカザリガニの他、地域によっては外来の捕食性魚類も本種の生存を脅かしている。

要因の区分：	（過去）	湿地開発，圃場整備，草地開発，ゴルフ場，土地造成，交通インフラ建設，水質汚濁，捕獲・狩猟/園芸採取，捕食（外来種による），管理放棄，遷移進行・植生変化/自然遷移
	（現在）	森林伐採，湿地開発，圃場整備，草地開発，土地造成，交通インフラ建設，水質汚濁，捕獲・狩猟/園芸採取，捕食（外来種による），管理放棄，遷移進行・植生変化/自然遷移，自然災害，発電施設建設，気候変動

特記事項

カスミサンショウウオとして、レッドリストに掲載されていたが、各地の個体群が遺伝的にきわめて大きく異なることから、2019 年に 9 種に分けられた。その後も愛知県名古屋市の個体群がオワリサンショウウオとされるなど、種分化の実態を解明するうえで、各地の個体群がそれぞれ重要性をもっている。比較的最近分類変更があったため、地方自治体のレッドリストや保護に係る法令指定、各種文献等では、分類変更前のタクソン（広義カスミサンショウウオ）として扱われている場合があることに注意が必要。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020：	ヤマトサンショウウオ	*Hynobius vandenburghi*	VU
第４次 2019：	—	—	—
第４次 2018：	—	—	—
第４次 2017：	—	—	—
第４次 2015：	—	—	—
第４次：	—	—	—
第３次：	—	—	—
第２次：	—	—	—

第１次:　　—　　—　　—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和６年度末時点）

【愛知県】絶滅危惧ⅠB類(EN),【三重県】絶滅危惧ⅠB類(EN),【滋賀県】希少種,【京都府】絶滅寸前種

保護に係る法令指定状況（令和７年度末時点）

特定第二種国内希少野生動植物種，都道府県条例指定種【京都府・奈良県】

参考文献

- 松井正文，2000．京都・大阪地域のカスミサンショウウオ．環境庁（編），改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物―レッドデータブック―（爬虫類・両生類），pp. 104‐105．財団法人自然環境研究センター，東京．
- 松井正文，2000．愛知県のトウキョウサンショウウオ．環境庁（編），改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物―レッドデータブック―（爬虫類・両生類），pp. 108‐109．財団法人自然環境研究センター，東京．
- 松井正文，2010．カスミサンショウウオ．改訂レッドリスト付属説明資料 爬虫類・両生類，pp. 13．環境省自然環境局野生生物課，東京．
- Matsui, M., K. Nishikawa, S. Tanabe, and Y. Misawa, 2001. Systematic status of *Hynobius tokyoensis* (Amphibia: Urodela) from Aichi Prefecture, Japan: A biochemical survey. Comp. Bioch. Physiol. B., 130: 181–189.
- Matsui, M., K. Nishikawa, T. Utsunomiya, and S. Tanabe, 2006. Geographic allozyme variation in the Japanese clouded salamander, *Hynobius nebulosus* (Amphibia: Urodela). Biol. J. Linn. Soc., 89: 311–330.
- Matsui, M., H. Okawa, K. Nishikawa, G. Aoki, K. Eto, N. Yoshikawa, S. Tanabe, Y. Misawa, and A. Tominaga. 2019. Systematics of the widely distributed Japanese clouded salamander, *Hynobius nebulosus* (Amphibia: Caudata: Hynobiidae), and its closest relatives. Cur. Herpetol., 38: 32–90.
- Matsuki, T. and M. Matsui, 2011. A skeletochronological study of breeding females in a population of Japanese clouded salamanders (*Hynobius nebulosus*). Zool. Sci., 28: 175–179.
- 田辺真吾・松井正文，1997．カスミサンショウウオ（京阪個体群）．日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料（IV），pp. 287‐291．日本水産資源保護協会，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hynobius vandenburghi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hynobius vandenburghi* is listed as VU under criteria B1ab.

B1. Extent of occurrence estimated to be less than 20,000 km², and estimates indicating at least two of a-c:

a. Severely fragmented or known to exist at ten or fewer locations.

b. Continuing decline, observed, inferred or projected, in any of the following:

(i) extent of occurrence

(ii) area of occupancy

(iii) area, extent and/or quality of habitat

(iv) number of locations or subpopulations

(v) number of mature individuals

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】Forest, Farmland, Abandoned farmland, Agricultural ditch, Wetland/Marsh/Stream, Reservoir/Pond 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】Forest, Farmland, Abandoned farmland, Wetland, Reservoir/Pond
Threat types:	Logging and wood harvesting, Wetland development, Field preparation, Grassland development, Land development, Transportation infrastructure construction, Water pollution, Hunting and collecting animals/Gathering plants, Predation (by alien species), Abandonment of management, Successional progression/Vegetation change/Natural succession, Natural disasters, Power plant construction, Climate change
Law designation status for conservation	Specified class II nationally rare species of wild fauna and flora. Prefectural Ordinance-Designated Species【Kyoto・Nara】.



執筆者:	田辺真吾（日本爬虫両棲類学会）・松井正文（京都大学）
Author:	Shingo Tanabe and Masafumi Matsui

公表年月：2026 年 3 月